



NPO法人ジャパンデンタルミッション

海外活動報告書

場所 ヴァヌアツ共和国 タンナ島

期間 2007年7月14日～7月23日

参加メンバー

(上段左から)

萱中寿恵(D) 関根淳(D) 羽原佳子(D) 川田昌美(V) 井川一馬(V)

(下段左から)

大西富子(H) 寺島聡子(H) 山本喜代(V) 沢田宗久(D) 田代博一(V)

*歯科医師(D) 歯科衛生士(H) ボランティア(V)



今回の活動の目的でもあるヴァヌアツ政府とJDMの活動に対する政府全面バックアップの件は、昨年に比べさらに具体化されてきた。Dr 沢田とVO川田がポートヴィラに延滞し、政府教育省・保険省関係者と共に協議し、JDMの活動がスムーズに進行するように車の手配や拠点となるハウスの確保、JDMが政府教育機関に学校歯科保健事業として参入し、ヴァヌアツの教育専門職者養成の一部の教科に口腔衛生教育を担当するという計画も具体的に立案、決定した。



こういった要請をヴァヌアツ政府がJDMに提案されるということは政府が口腔衛生の重要性や、教育機関を通じて啓蒙することが早道であることを認識した結果であり、今まで24年間のJDMの活動に絶大なる信頼をおいて頂いていると自負するところである。

目の前の沢山の虫歯治療や入れ歯作成に追われる活動は決してムダにはならず、その積み重ねがこういった大きな事業や国の教育にまでかわりを持つように発展したことはJDM活動の大きな節目となり、今後より一層の研鑽と努力を望まれているようで身が引き締まる思いである。

保健省、教育省の皆さんと一緒に

7月16日(月)

昼近くタンナ島に一足早く8名が到着、診療準備、食料の買出し・・・それぞれに活動開始。セラピストのティミー氏より明日よりウィピルメイ小学校に早速検診に行つて欲しいとの要請があり、治療班と検診班に分かれる準備をする。

一年間置いていた医療機器を準備するには時間がかかったが、準備をしながら診療を続けた。

患者数：10名 充填：4本 抜歯：6本 スケーリング：2名 チェック：2名

今回入れ歯治療はできないと言う貼り紙をビシュラマ語で貼るやいなや2名の患者さんが涙を流して「もう2年も待っている・・・」と言いながら帰って行かれる後姿は切なかった。

7月17日(火)

朝よりトメリさんが応援に来てくれた。ビラのデンタルセラピスト、現地語で説明、通訳をしてくださるのでとても力強い助手である。

朝よりウィピルメイ小学校に検診に行く(トメリ・寺嶋・関根・大西)生徒数：58名

患者数：20名 充填：0 抜歯：24本 スケーリング：3名 チェック：0

早朝より沢山の患者さんが列を作っていた。ラナケル病院のティミー氏は予診にまわり現地語で主訴を聞いてくれた、Drが2名でこれだけの患者数をこなすのは至難の業である。

午後より会議を終えてビラより到着したDr沢田とVO川田が診療に参加する。

7月18日(水)

今回のもう一つの目的でもある国際文化交流の架け橋となるべく、八尾市立西山本小学校の5・6年生の描いた「鯉のぼり」とタンナ島ラナケル小学校の生徒の描いた「鯉のぼり」を交換するという行事である。Dr沢田とVO川田がラナケル小学校に検診と「鯉のぼり」のペインティングをお願いに行く。

ラナケル小学校・・・生徒数105名(沢田・川田)

ユーミット小学校・・・生徒数135名(関根・トメリ・大西)

ツフー小学校・・・生徒数168名(関根・トメリ・山本・大西)

患者数：31名 充填：12本 抜歯：31本 スケーリング：3名 チェック：2名



」DMが来ていることを知った島民達が徒歩で4・5時間も歩いて来院される。抜歯本数が増えてくるが、やむを得ない処置である、学校検診にスタッフがとられるため、診療所ではVOの活躍が必至である、井川さんが大活躍してくれた。買い物や食料準備のかたわら、診療補助を担ってくれた。

7月19日(木)

患者数がピークになる。ラナケル小学校の検診でチェックの入った子ども達12名も治療対象となった、診療所の前は人だかりとなる、そういった時はVOの田

代さんの出番である、みごとに明るく、待ちくたびれている患者さん達を英語でなごませてくれ振り分けてくれる。

Dr 沢田は時々ラナケル小学校に出向き子ども達が鯉のぼりにペイントしている様子を撮影。絵の具というものにあまり慣れていない彼らではあるが、しっかりとしたタッチで取り組んでくれている様子が伺える。

ディップポイント小学校・・・生徒数150名(寺嶋・トメリ・井川・大西)

ローン小学校・・・・・・・・生徒数53名(寺嶋・トメリ・井川・大西)

患者数：43名 充填：20本 抜歯：22本 スケーリング：4名 チェック：14名

個人的なことであるが、昨年このディップポイント小学校には歯ブラシが足りなくて、生徒全員に配ることができずにとて心苦しい思いのまま帰路に着いたため、今年はどうしても歯ブラシと鉛筆とサッカーボールはこの手で届けたかった。トラックを降りた時この学校の校長先生が「約束どおり来てくれてありがとう！！」と握手をしてくださった。言葉につまり、涙があふれそうになった。子ども達に鉛筆とボールを見せた時の嬉しそうな笑顔は忘れられない。

『これだから、活動はやめられない・・・』帰りのトラックは感動で胸がいっぱい！



7月20日(金)

早朝より患者さんは居るが、午後ともなると急に患者さんが来なくなる、島民は遠い所から徒歩で来るため、午後からは帰りが真っ暗になってしまう。それで朝はごった返す。

今回の活動では曇空が多く、午後から雨模様。早めに切り上げて午後からは在庫チェックをする。

ラナケル小学校での「鯉のぼり」の絵が完成し、スタッフがその交換式を見学に行った。

空になびく二つの鯉のぼりは壮大で優

雅であった。小学生も完成を喜び「ユーミン」という国歌を合唱してくれた。子ども達の声は何てきれいなんだろう・・・。

患者数：14名 充填：0 抜歯：14本 スケーリング：3人 チェック：1名

デンチャー修理：1名



在庫チェックを終え、本来ならば火山の見学に行く予定であったが、大雨となり中止になった。3日前よりJICAの小学校体育教師の浦てるひろ氏が私達のハウスに食事に来てくれた。

彼の話から、タンナ島のロカタイ小学校の30人31脚というTV出演の裏話は興味津々だった。

彼から島民の純朴なエピソードを聞かされ感動し、田代さんの料理の美味しさと相まって、毎日が満腹であった。

今回6校の小学校に出向き診療所は常に人手不足であったが、Dr羽原とDr萱中は疲れを訴えることもなく、ひたむきに、治療に専念して下さった姿はとても感動的であった。

ヴァヌアツ人の歯は尋常な硬さではない、ヘーベルが折れるくらい硬い歯牙なのである、残根だと侮ったらあまりの硬さにえらい目にあう。

来年からの予定として、保健省とのミーティングの結果、検診予定の小学校はツファー、ラナケル、ウィピルマイ、ディップポイントの4校に選ばれた。立地・環境・食生活などを考慮に入れ4校を決定した。継続的な検診をすることでデータを分析し、今後の学校歯科保健活動に活用したいという政府からの申し入れを考慮にいれ、今後10年間継続させる。

日	充填(本)	抜歯(本)	スケーリング	チェック	義歯修理	受信者数
16日	4	6	2	2	0	10
17日	0	24	3	0	0	20
18日	12	31	3	2	0	31
19日	20	22	4	14	0	43
20日	0	14	3	1	1	14
合計	36本	97本	15人	19人	1床	118人

今回検診した小学校は以上の6校である

学校によっては本来の全校生徒はこれの約2倍の生徒数である。

私達が午後から出向く時間には子ども達が帰っているケースが多く、それほど通学に時間がかかっているということである、来年からは4校の小学校に絞る予定だが、全部朝のうちに検診できれば、この人数より上回る予定である。

子ども達はだいたい2～3時間かかって、徒歩で学校まで通い、中には5時間徒歩で毎日通学している生徒もいるということである。

小学校名	人数
ウィピルマイ	58
ラナケル	105
ユーミット	135
ツファー	168
ディップポイント	129
ローン	53
合計	648人

感想

我々の活動は歯科医療奉仕活動のみならず、文化交流、青少年育成の3本柱で行っている。

ヴァヌアツでは、4、5時間もかけて来院する患者も居て、入れ歯の要望が多いが、今回は歯科技工士の参加がなく、入れ歯の作成が出来なくて心苦しく思えた。

次回からは技工士の参加が望まれる。

文化交流として、去年から行っている八尾市立西山本小学校とラナケル小学校との絵画の交換をより発展させ、今回は「鯉のぼり」の交換を行った。

両校とも素晴らしい出来栄で、大空に風一杯浴びて泳ぐ姿はとても雄大で圧巻であった。(写真下)「鯉のぼり」を通じて日本の文化を少しでも知ってもらう機会が出来た。また、ボランティアとして参加した若者は活動を通じて自分の人生を見つめる機会が出来て、より大きく成長したと思える。今後の活躍に期待したい。



ヴァヌアツの子供達によって鯉のぼりが完成した

